



# JTRUST

2016年3月期 第2四半期

# 決算説明資料

2015年11月

Jトラスト株式会社



# 目次

## 1. 2016年3月期第2四半期決算業績

代表取締役 専務執行役員 千葉 信育

## 2. セグメント別業績

## 3. 現状の取組みと今後のビジョンについて

代表取締役社長 最高執行役員 藤澤 信義

## 4. 質疑応答

# 免責事項

- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 本資料に記載した I F R S ベースの数値は、当社が参考値として策定した未監査の数値であることをご承知おき下さい。
- また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社または子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- Jトラストインドネシア銀行のJ-GAAPは同行の決算期をそのまま取り込んでおります。（第1四半期：1月～3月 第2四半期：4月～6月）



# *Key Point*

# I. 国内金融事業

⇒営業収益、営業利益ともに計画通り、順調に進捗

# II. 韓国金融事業

⇒事業および韓国決算は順調 J-GAAPは若干ビハイインド

# III. 東南アジア金融事業

⇒通期営業利益計画15億円達成に向け、取組み強化中

# IV. 非金融事業・投資事業

⇒営業利益は順調に進捗

# 2016年3月期第2四半期決算概要

## Point

➤ **営業利益は前四半期比16億円改善**

連結P/L (J-GAAP) ※前四半期比

2016年3月期	4~9月	4~6月	7~9月	増減
営業収益	377億円	195億円	182億円	△13億円
営業利益	△23億円	△19億円	△3億円	+16億円
経常利益	△22億円	△15億円	△6億円	+9億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△23億円	△27億円	4億円	+31億円
営業利益率	△6.18%	△9.73%	△2.09%	+7.64%
ROE	△1.35%	△1.48%	0.27%	+1.75%



# セグメント別業績

## Point

- 全体で13億円の減収も、第1四半期との差は韓国のNPL債権売却によるもの（韓国決算月等の影響）

## 営業収益（J-GAAP）

2016年3月期	4~9月	4~6月	7~9月	増減
国内金融事業	53億円	26億円	27億円	+1億円
韓国金融事業	133億円	74億円	59億円	△15億円
東南アジア金融事業*	61億円	32億円	29億円	△3億円
投資事業	8億円	-	8億円	+8億円
非金融事業	120億円	61億円	59億円	△3億円
連結調整後合計	377億円	195億円	182億円	△13億円

※ 期ずれ計上

## Point

- 東南アジア金融事業は前四半期比16億円の改善
- Jトラストアジアによる投資事業が奏功し7億円を利益計上
- 韓国にてブランド統一戦略による先行投資を実施

## 営業利益 (J-GAAP)

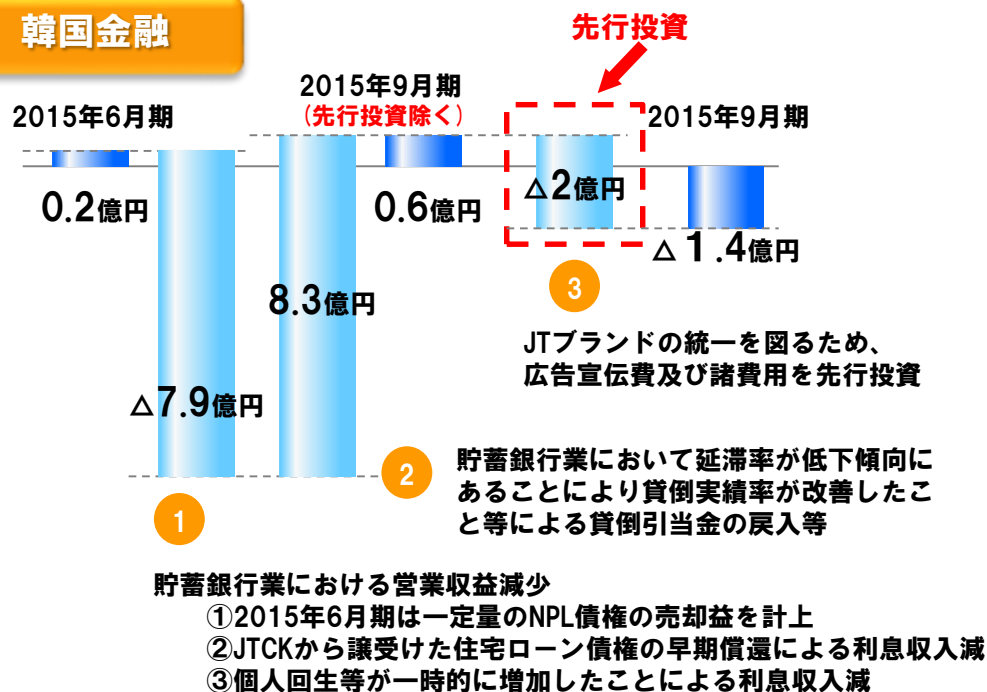
2016年3月期	4~9月	4~6月	7~9月	増減
国内金融事業	15億円	9億円	6億円	△3億円
韓国金融事業	△1億円	0.1億円	△1億円	△1億円
東南アジア金融事業*	△34億円	△25億円	△9億円	+16億円
投資事業	7億円	-	7億円	+7億円
非金融事業	1億円	2億円	△1億円	△3億円
連結調整後合計	△23億円	△19億円	△3億円	+16億円

※ 期ずれ計上

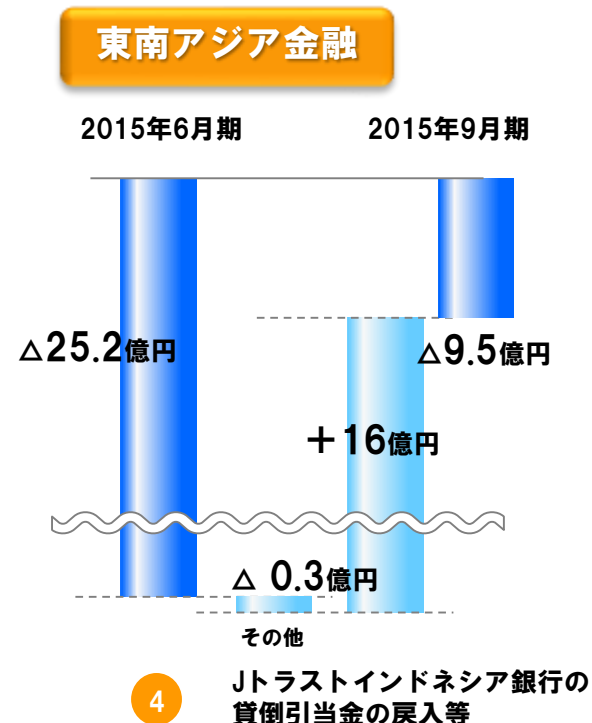
## Point

- 韓国金融事業では、グループCMなど含むブランド戦略による若干の先行投資を行うも、当該要因を除けば第1四半期と同水準
- 東南アジア金融事業では、Jトラストインドネシア銀行において、有担保債権に対する貸倒引当金の見直しにより繰入額の戻入を行ったことで損失幅が減少

### 韓国金融



### 東南アジア金融



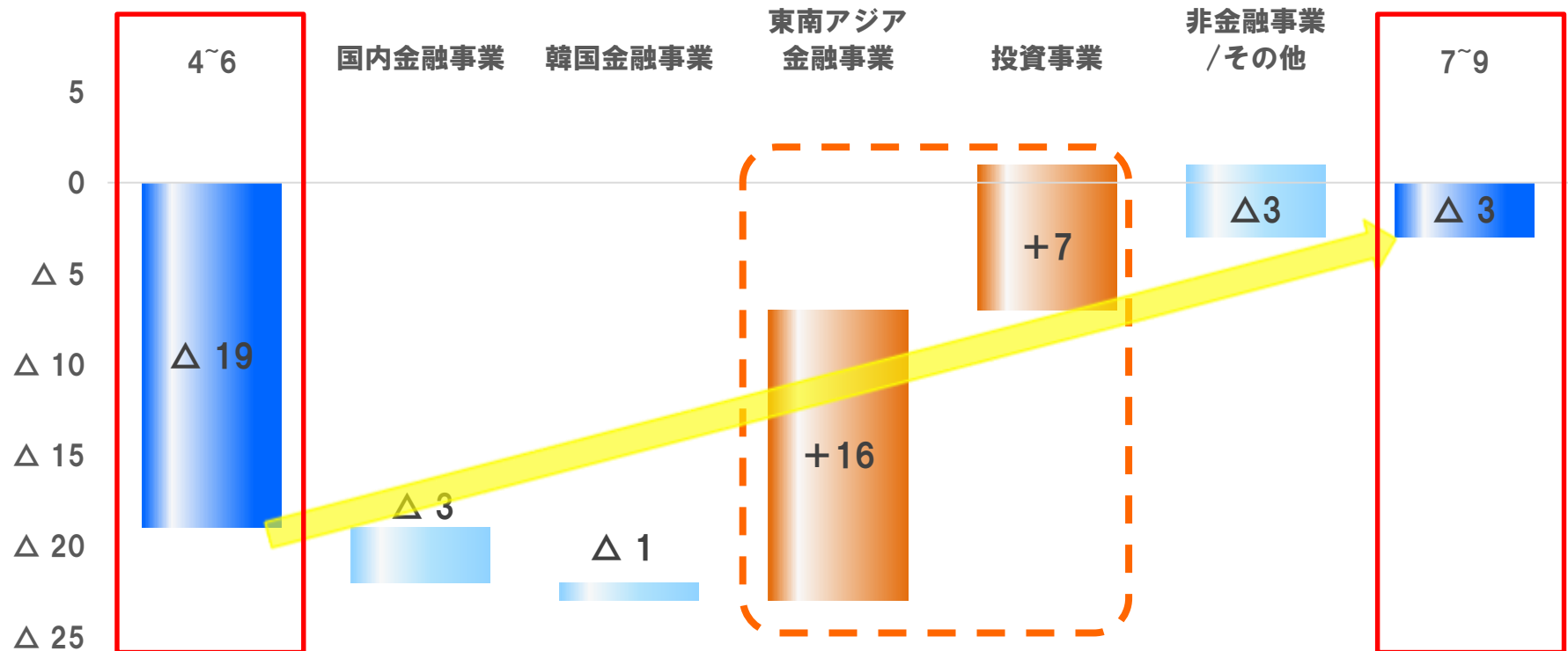
※ 詳しくは決算補足説明資料P7をご参照ください

Point

- 東南アジア金融事業および投資事業の貢献により  
前四半期比16億円の改善

営業利益（J-GAAP）※前四半期比

単位：億円





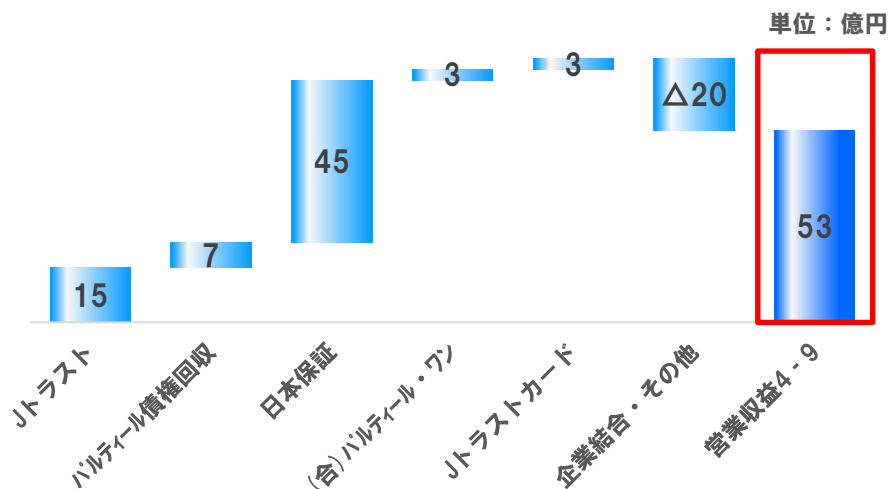
# 国内金融事業

## Point

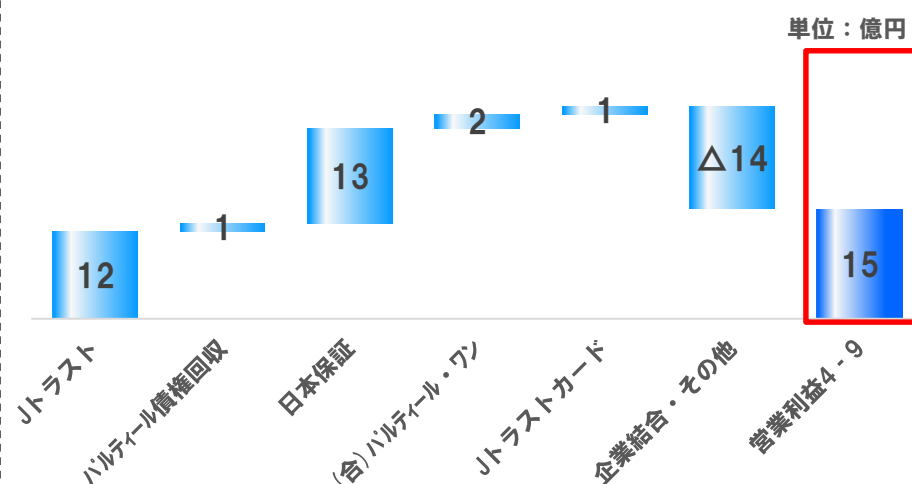
- 営業収益は前四半期比で横ばい
- 営業利益は、日本保証の半期引当金の積み増しにより3億円の減少

2016/03 J-GAAP	4~9月	4~6月	7~9月	増減
営業収益	53億円	26億円	27億円	+1億円
営業利益	15億円	9億円	6億円	△3億円

### 各社別状況 営業収益



### 各社別状況 営業利益

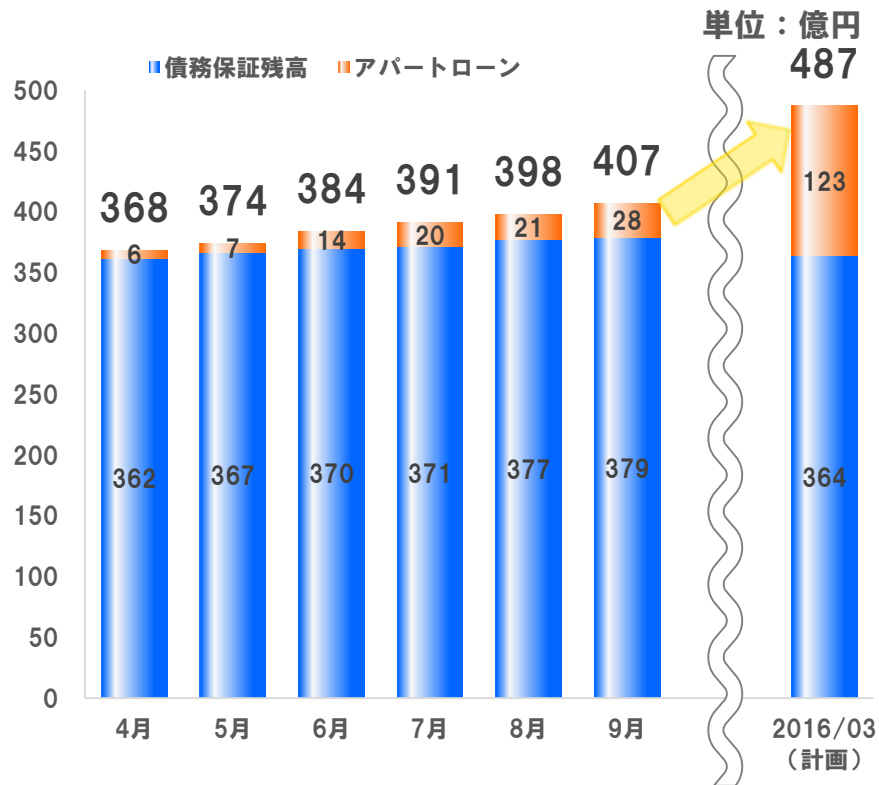




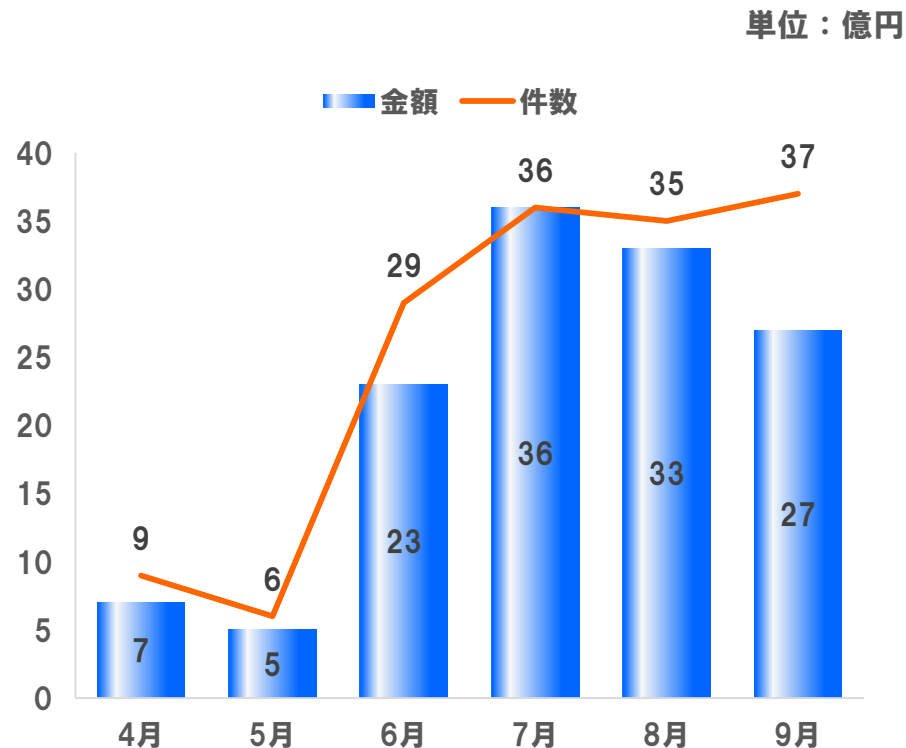
## Point

- 保証残高は計画通りに進捗、アパートローン本承認も順調に積み上がり、今期末計画487億円に向け進捗中

### 日本保証における保証残高の推移



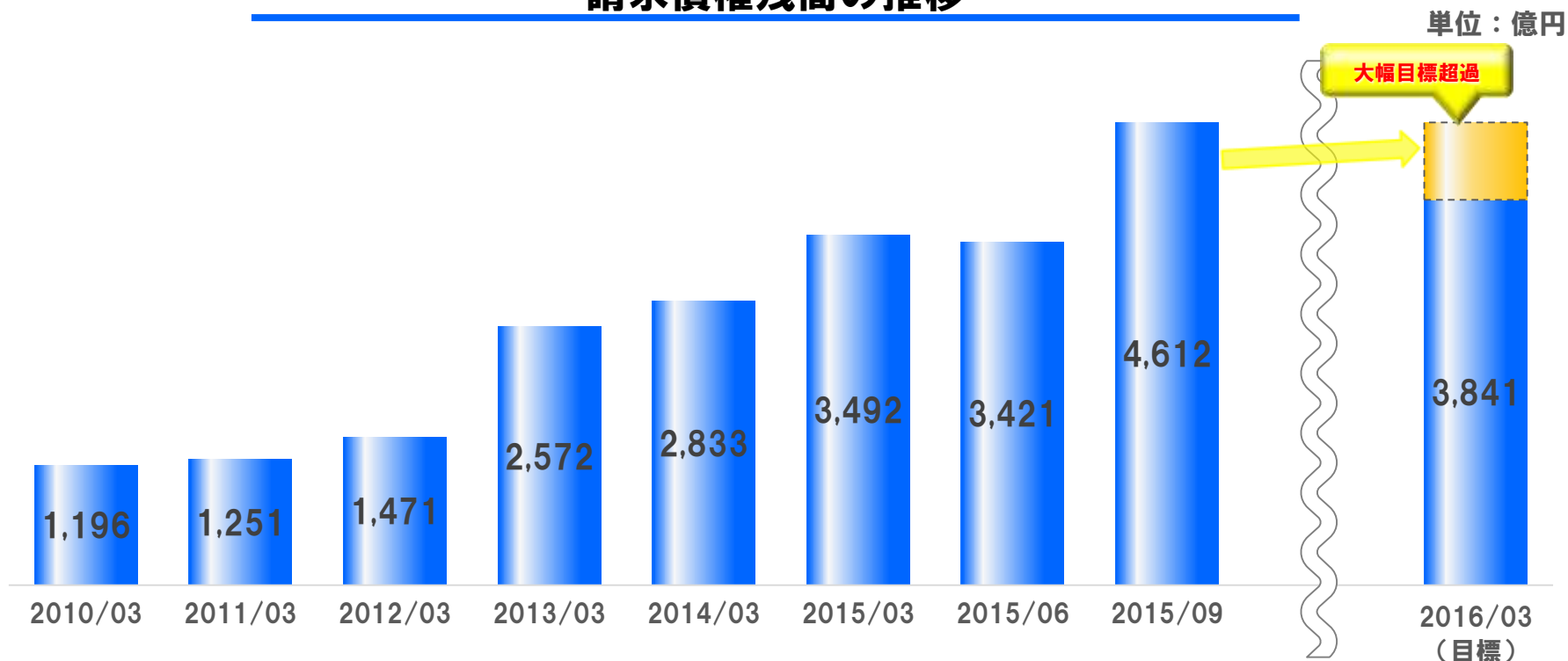
### アパートローン本承認の状況



## Point

- 当第2四半期において、サービサーのパーティールが大型不良債権の買収に成功
- 今期請求債権残高目標3,841億円を既にクリアし、大幅に目標超過（達成率：120%）

## 請求債権残高の推移



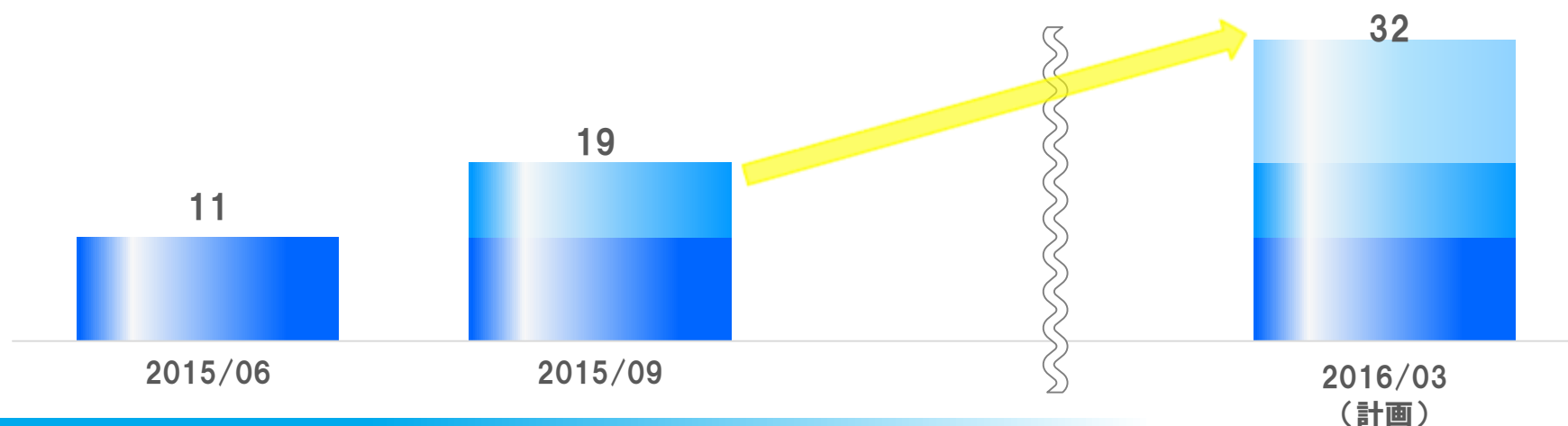
Point

- 営業収益・利益ともに、順調に進捗
- 武富士の簿外債権の回収も順調

	2015/09 J-GAAP	2015/09 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	53億円	51億円	111億円	48.2%
営業利益	15億円	19億円	32億円	62.3%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円





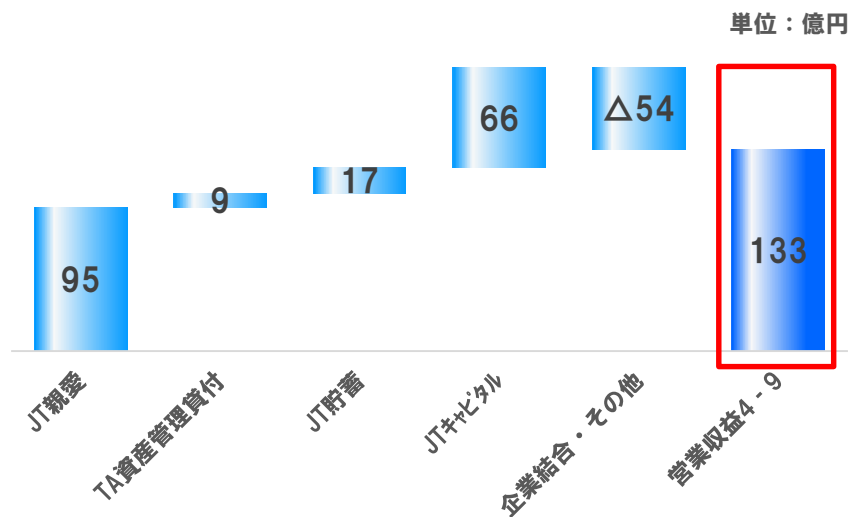
# 韓国金融事業

Point

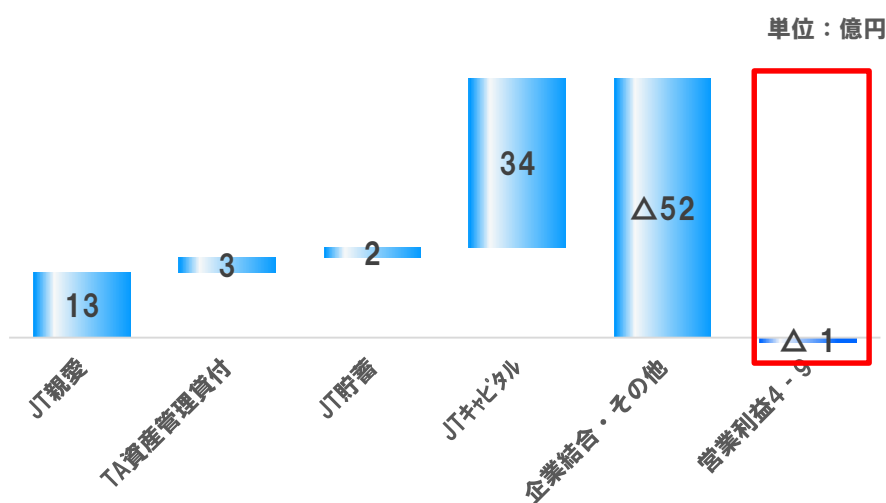
- 営業収益は第1四半期の債権売却益の影響を除くと概ね横ばい
- ブランド統一にかかる広告費、修繕費等で約2億円の先行拠出

2016/03 J-GAAP	4~9月	4~6月	7~9月	増減
営業収益	133億円	74億円	59億円	△15億円
営業利益	△1億円	0.1億円	△1億円	△1億円

各社別状況 営業収益



各社別状況 営業利益



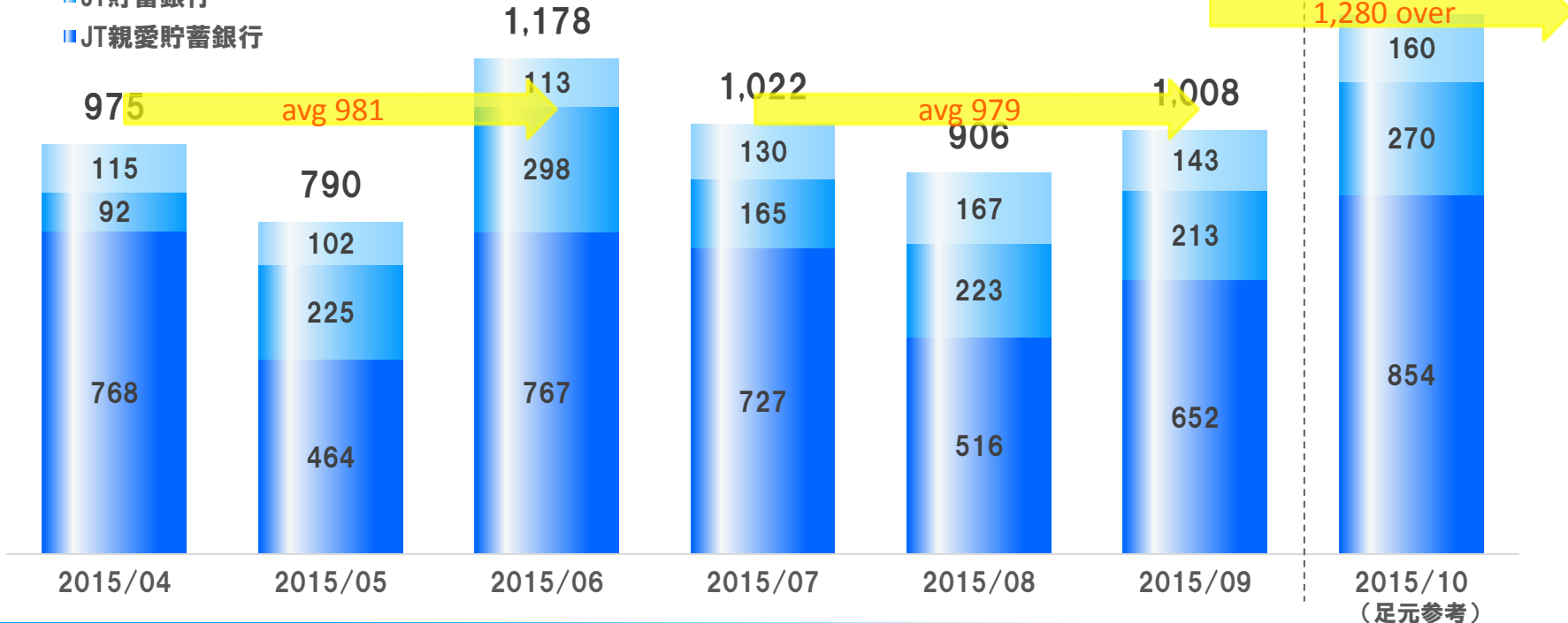
Point

- Jトラストブランドの醸成が奏功し、月間新規貸付金額は安定的に1,000億ウォンを実現

月間新規貸付金額

単位：億ウォン

- JTキャピタル
- JT貯蓄銀行
- JT親愛貯蓄銀行



Point

- 貸付金残高は、前四半期比概ね横ばい
- 下期足元の10月は単月500億ウォンの純増を実現

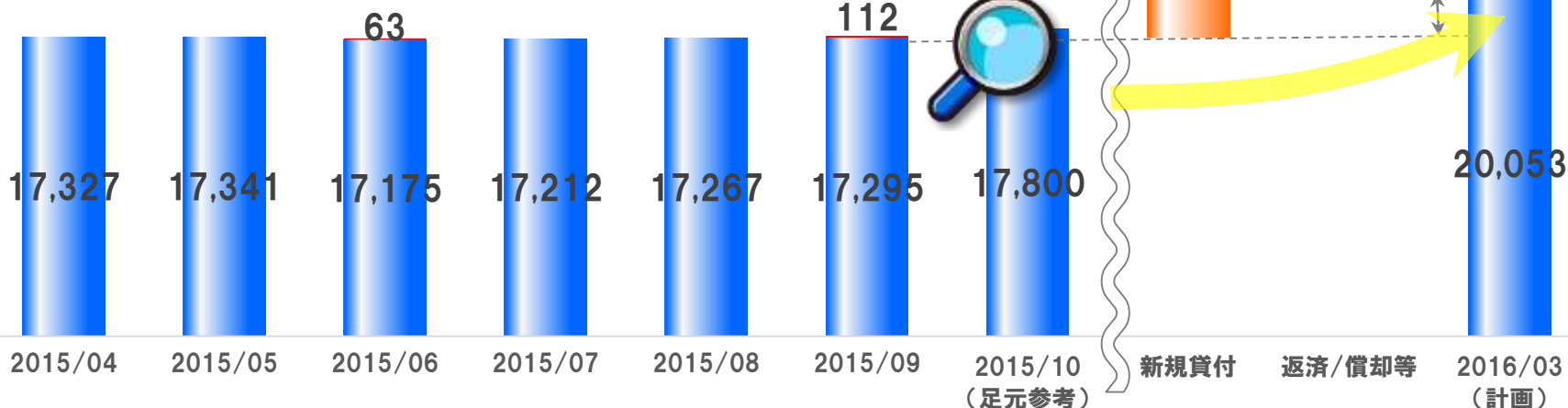
貸付金残高推移

単位：億ウォン

J T 親愛貯蓄銀行  
J T 貯蓄銀行  
J T キャピタル

3社合計

■ 合計 ■ 売却



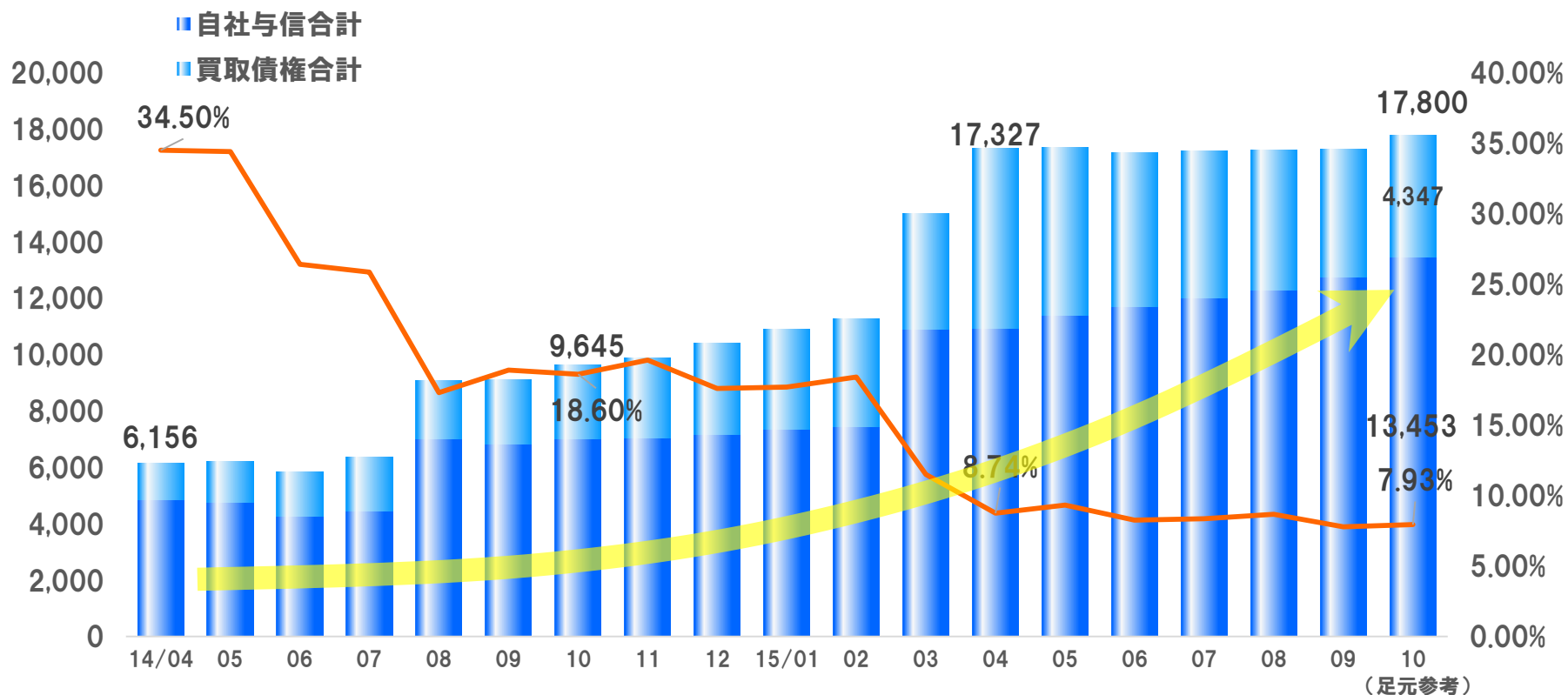


Point

- 自社与信（貸倒率：3%以内）を付与した債権が着実に増加したことにより、不良債権（30日以上延滞債権）は減少

貯蓄銀行/キャピタルの残高および不良債権推移

単位：億ウォン

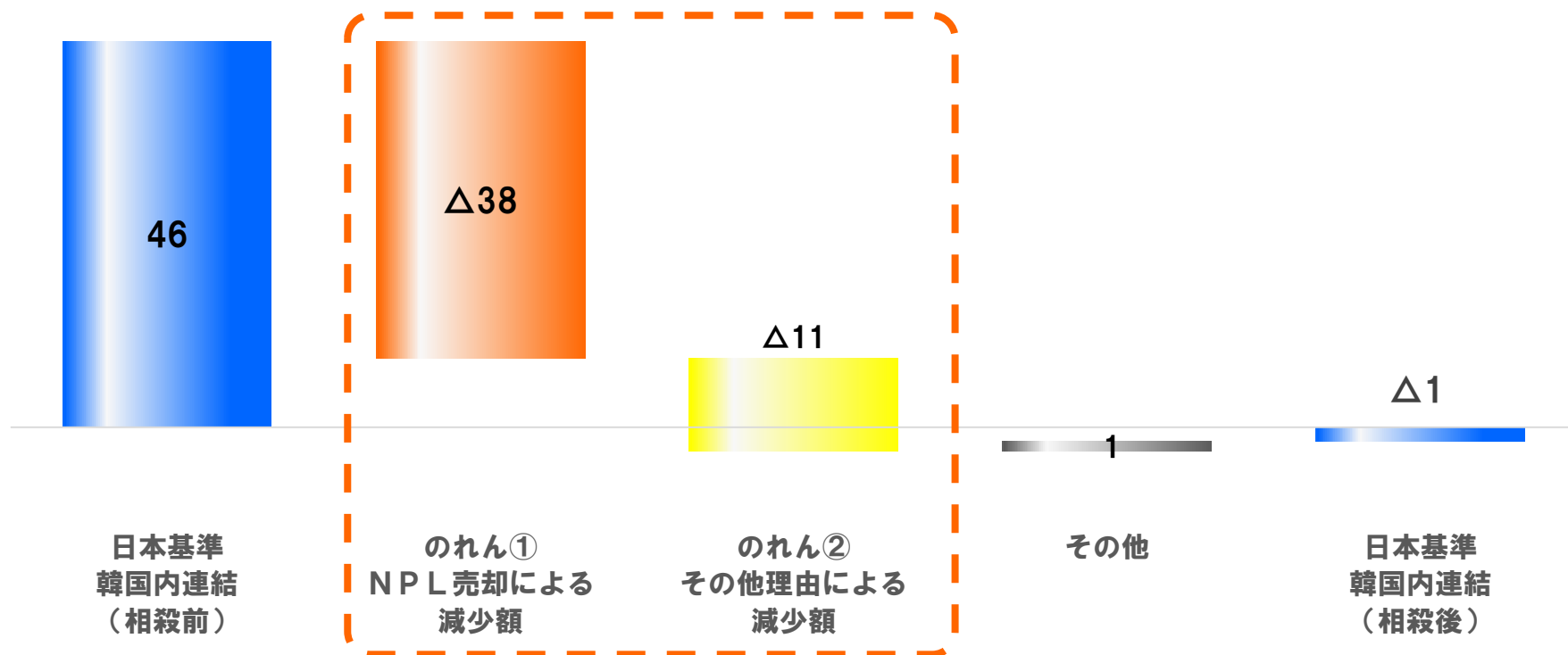


## Point

- 2015年3月期に計上した負ののれん発生益が今期利益に影響
- 韓国の営業利益合計を日本基準に換算すれば46億円のプラス

## のれんの償却が営業利益に与える影響 (9月末現在)

単位：億円  
※1ウォン=0.1円

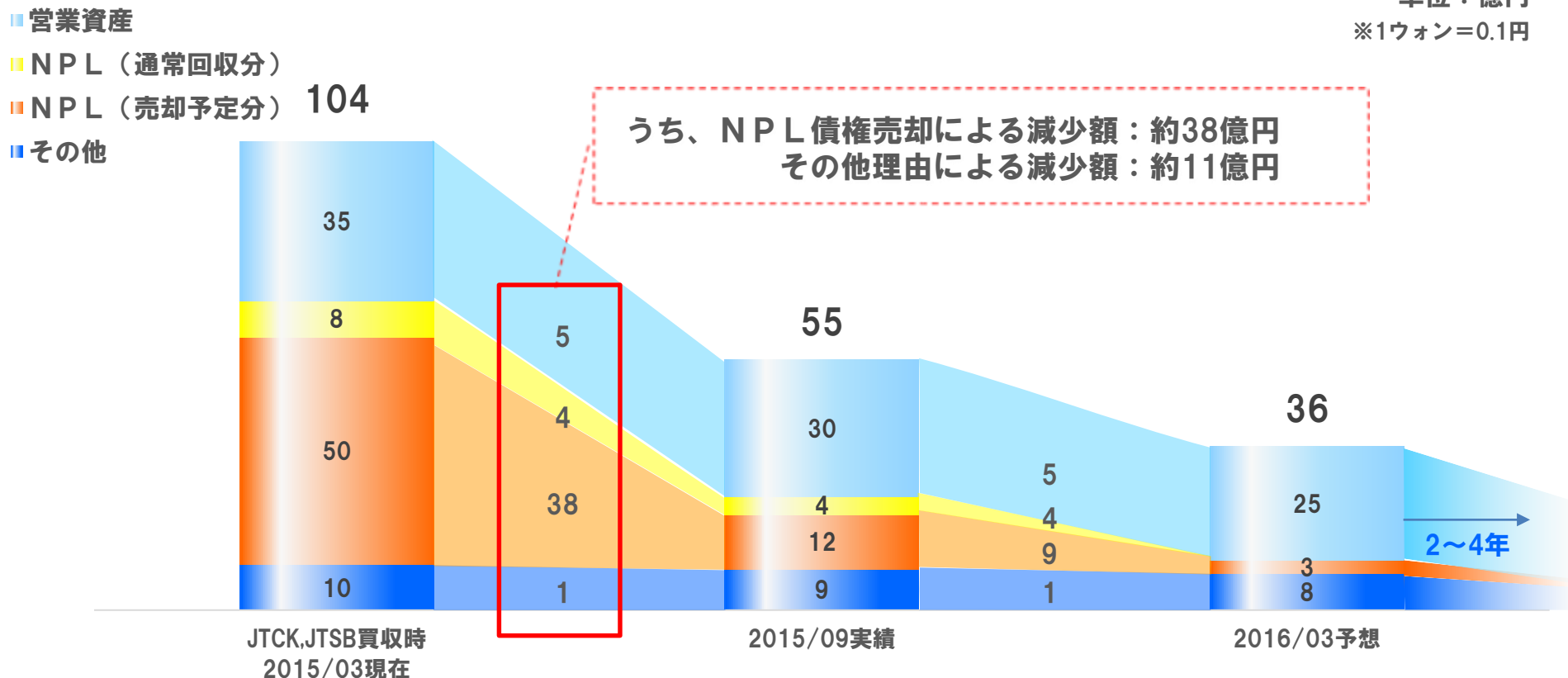


Point

- 2015年3月期連結決算に計上したJT貯蓄銀行およびJTキャピタル買収時における負ののれんが及ぼす影響について

のれんの残高の減少イメージ

単位：億円  
※1ウォン=0.1円



Point

- ▶ ブランド統一の一貫で実施したCMおよびスポーツマーケティング戦略が、韓国国内中の話題となり、10月以降の数値に寄与

9月 韓国で最も有名な女優モデルのCM起用に関する報道

10月 プロ野球チームのメインスポンサーに関する報道

Jトラストグループ  
ブランドCM (9月)



プロ野球のメインスポンサーに  
関する報道 (10月)



マスコミ報道による  
マスコミニュース報道件数 JトラストのHPビュー数値  
(韓国ページ)

月	報道件数	月	PV数
4月	86件	4月	2,633件
5月	23件	5月	2,655件
6月	49件	6月	4,818件
7月	148件	7月	6,294件
8月	94件	8月	5,155件
9月	517件	9月	11,188件
10月	423件	10月	28,096件

認知度が  
格段にアップ!

2015年10月は  
月間1,280億₩  
(過去最高)の  
貸付が実現!

Point

- **N P L 債権の売却益：15億円/広告費削減効果：6億円/営業強化：5億円により、当期計画は達成見込み**

	2015/09 J-GAAP	2015/09 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	133億円	132億円	300億円	44.2%
営業利益	△1億円	△8億円	25億円	—

**今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）**

単位：億円





# 東南アジア金融事業

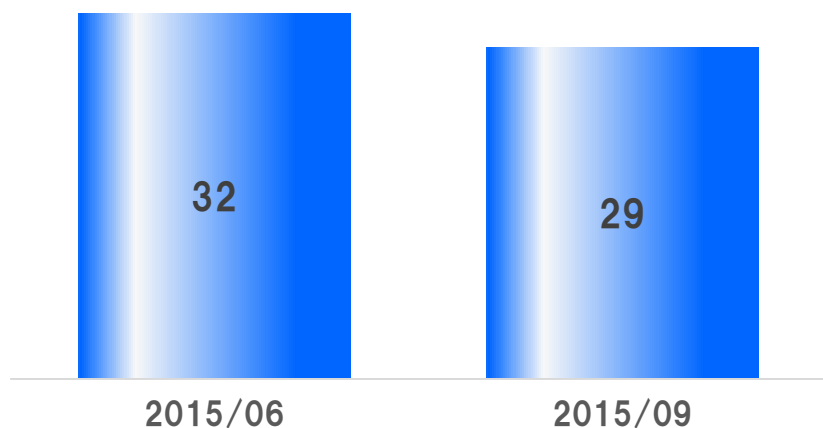
Point

➤ 貸倒引当金の戻入れにより利益水準は改善

2016/03 J-GAAP	4~9月	4~6月	7~9月	増減
営業収益	61億円	32億円	29億円	△3億円
営業利益	△34億円	△25億円	△9億円	+16億円

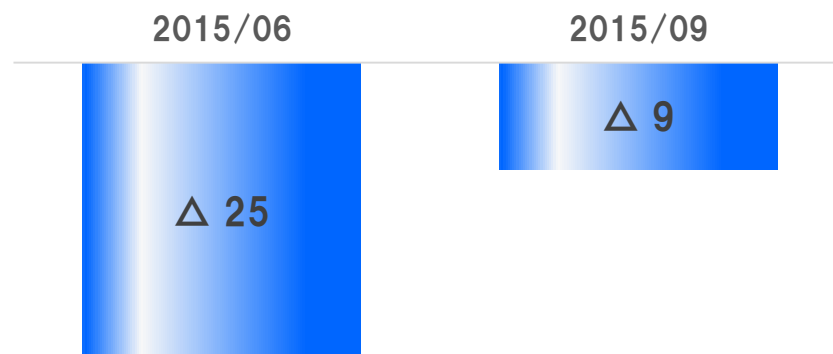
Bank Jtrust 営業収益

単位：億円



Bank Jtrust 営業利益

単位：億円

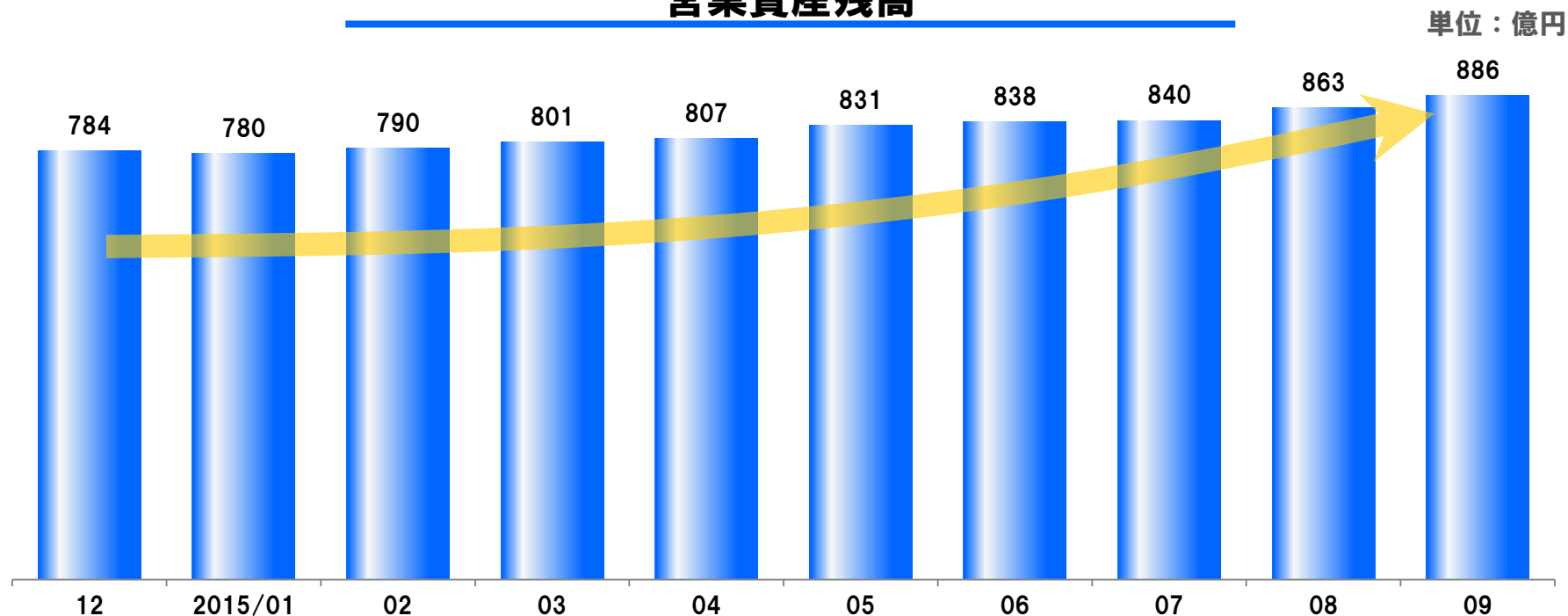




## Point

- 買収前に減少し続けていた営業資産が増加
- NPL売却により一旦減少することが見込まれるものの、財務健全化によって、資産拡大の基盤が整備
- 営業・審査体制の強化により通期計画1,095億円達成へ向け、確実な事業推進

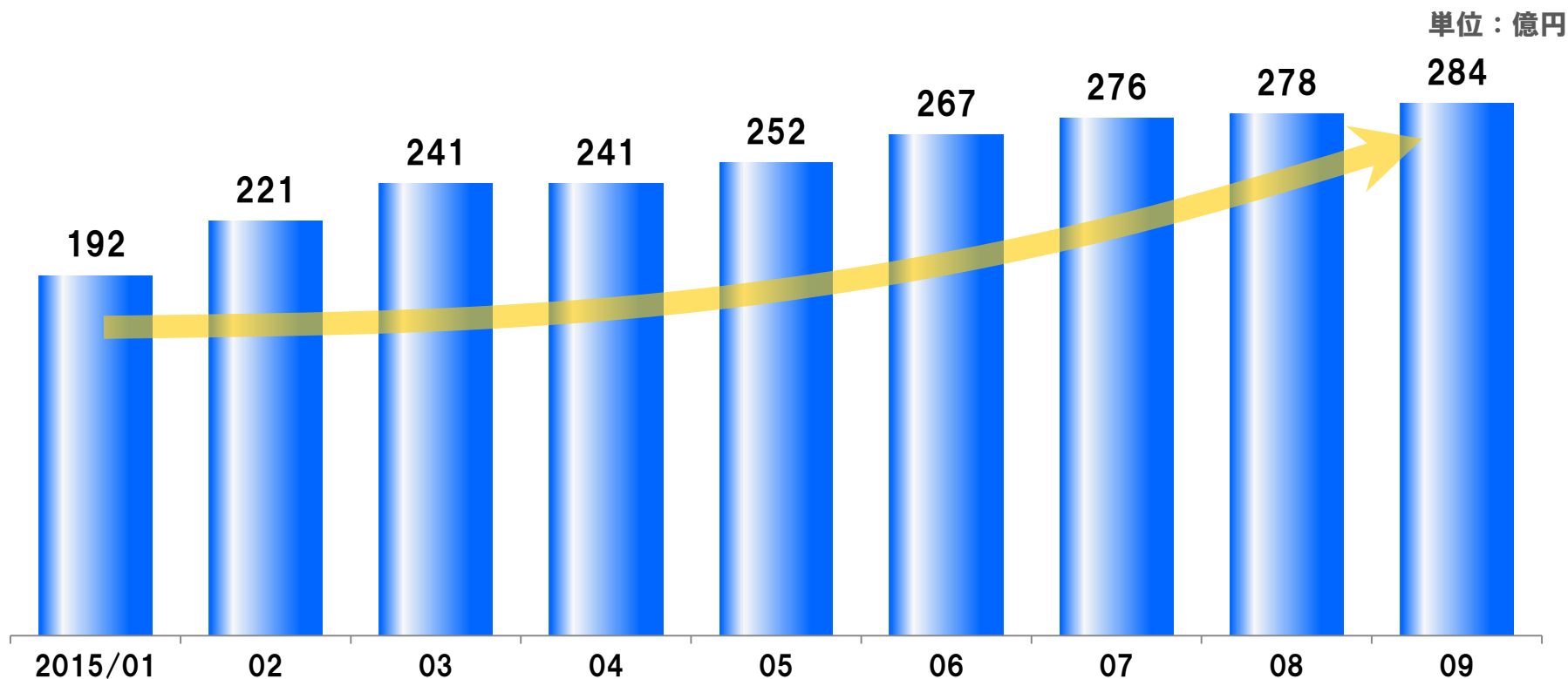
## 営業資産残高



Point

- マルチファイナンス会社との提携ローンは順調に推移

マルチファイナンス向けローン残高



Point

- 平均預金金利は順調に低下し、今期目標を既に達成
- 10月よりコーポレート向けインターネットバンキングを導入し、下期も継続して良化を見込む

経営指標目標の進捗

	2016/03期 の目標値	2015/09 時点
平均預金金利	8.2%	7.7%
平均貸付金利	12.7%	10.6%
自己資本比率 (CAR)	13.7%	16.2%
CASA比率	18.4%	18.1%*
純利鞘 (NIM)	4.5%	0.9%
預貸率	92.0%	82.4%

※一時的要因を含む

Point

- Jトラストグループのカルチャーのもと、構造改革を推進
- 今期中に月次ベース営業利益の単月黒字化を見込む

構造改革の内容と対策

<p>人事施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 現地銀行の経営ノウハウを持つエキスパートの獲得</li> <li>• 早期退職制度の適用による人員の適正化と共に経験豊富な人材の採用 (インセンティブ/待遇の見直しにより「やる気」を出す) (回収力の高い人材の採用、能力の高い社員を配置)</li> </ul>
<p>要注意先特別対応プロジェクトチームの組成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 債権をNPL化させないため、債務者区分に応じた施策を確実に実行することで不良化を阻止</li> </ul>
<p>調達コストの更なる低減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JTグループのシナジー効果を最大限に発揮 (取引先銀行との良好な取引を背景に、ルピア建て預金の獲得スキームを創出し、低コスト資金を調達するなど)</li> </ul>

Point

- **インドネシア銀行ベスト頭取賞受賞の安藤律男氏を迎え、体制強化で中期経営計画を遂行**

安藤律男氏略歴

1979年	大和銀行（現りそな銀行）入行
1989年	りそなブルダニア銀行（インドネシア）配属
1996年	大和銀行国際部インドネシア室配属
2001年	りそなインドネシアファイナンス社長就任
2007年	アコム入社 同社海外業務開発部長就任
2008年	BNP銀行（アコムインドネシア銀行）副頭取就任
2009年	BNP銀行頭取就任
2013年	「インドネシア銀行ベスト頭取賞2013」を受賞 Best CEO, Indonesian Banking Award 2013
2015年	11月1日付け Bank JTrust Indonesia入行 同社常勤顧問に就任



Point

- 営業資産を増加させるための「攻め」の施策
- NPL債権の分離により、営業を強化できる体制へ

貸出増加のための施策強化

<p>営業活動強化の 基盤づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 優良資産とNPL債権を分離することで劇的にNPL比率を改善し、営業を強化できる体制へ (2015年10月22日付 220億円)</li> </ul>
<p>資本増強</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 増資（約35億円）および劣後債発行を実施し、資本を増強。自己資本比率を約18%へ (2015年10月末見込)</li> </ul>
<p>貸出増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自己資本不足により保留となっていた融資先のパイプラインを順次審査し、融資実行</li> <li>• 12月までに約200億円の融資実行計画と併せ営業体制を強化し、来年以降の安定的な融資残高の積み上げを目指す</li> </ul>
<p>提携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グループリース社との協業によるマルチファイナンス向け貸出残高の拡大を準備中、来年以降の開始を目指す</li> </ul>

Point

- 営業収益は順調に推移
- 貸倒引当金繰入等の一時的費用も下期不良債権の回収により挽回
- NPL債権の売却により延滞率が改善し期末に引当金の戻入れが見込まれる※

※（戻入金額については精査中）

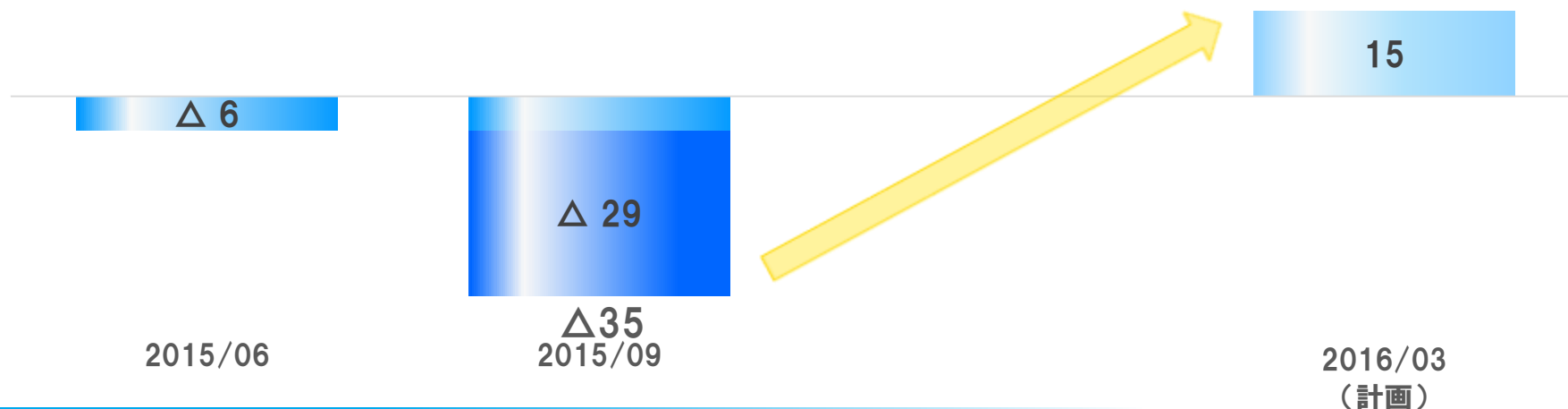
※2015年1月~6月

※2015年4月~9月

	2015/09 J-GAAP	2015/09 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	61億円	57億円	120億円	48.1%
営業利益	△34億円	△35億円	15億円	—

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



# 非金融事業・投資事業

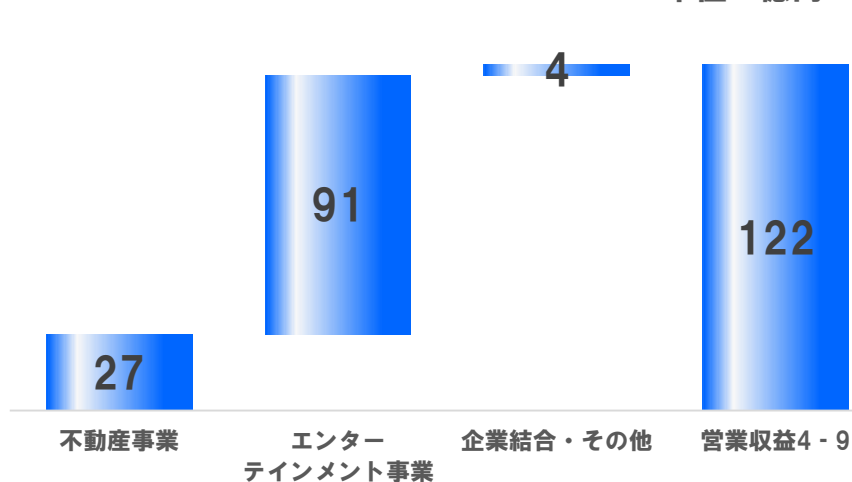
Point

- 営業収益は横ばい
- 不動産事業は好調

2016/03 J-GAAP	4~9月	4~6月	7~9月	増減
営業収益	128億円	61億円	67億円	+5億円
営業利益	8億円	2億円	6億円	+4億円

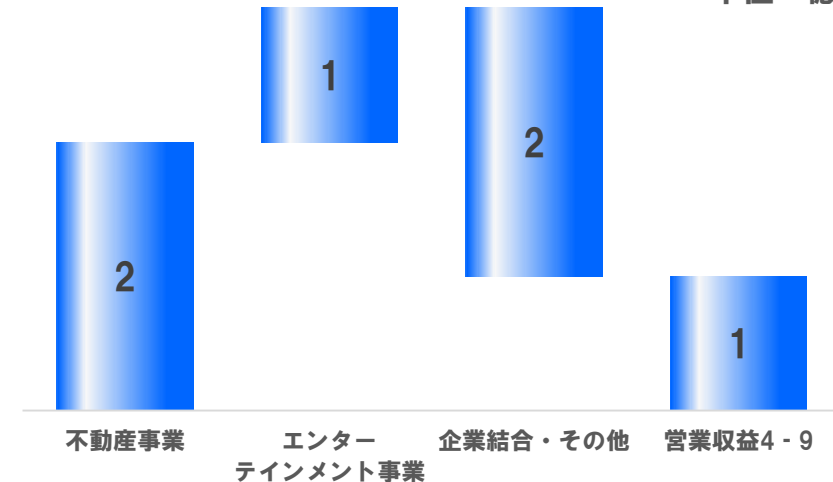
各事業別状況 営業収益

単位：億円



各事業別状況 営業利益

単位：億円



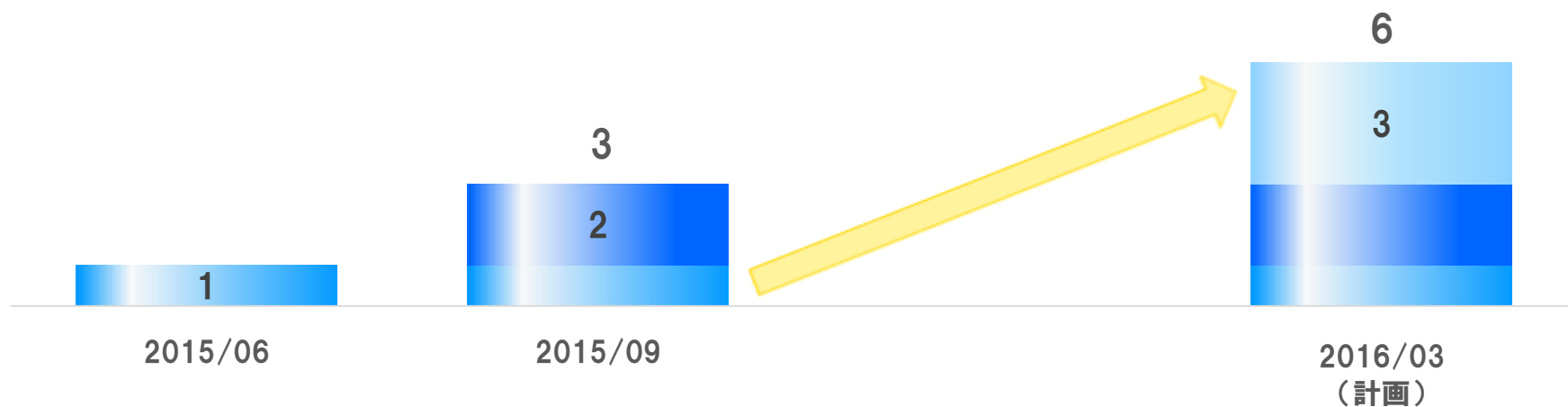
Point

- 営業利益（IFRS）は通期目標対比50%と順調に進捗
- Jトラストアジアの投資事業が貢献

	2015/09 J-GAAP	2015/09 IFRS	2016/03 IFRS計画	IFRS計画 進捗率
営業収益	128億円	130億円	250億円	52.0%
営業利益	8億円	3億円	6億円	50.0%

今後の営業利益の積み上げイメージ（IFRS）

単位：億円

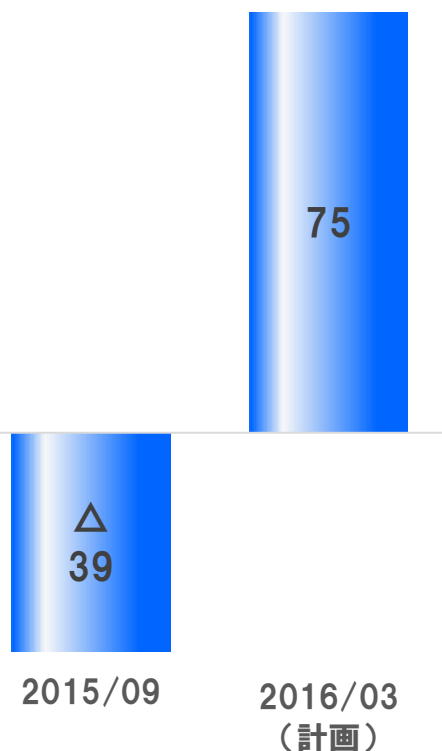




# まとめ

Point

- 第2四半期まではビハインドだが、通期営業利益計画75億円に向けて各事業は確実に進捗し達成を見込む



2016年3月期 (IFRS)	通期計画	4~9月	10~3月目標
国内金融事業	32億円	19億円	13億円
韓国金融事業	25億円	△8億円	33億円
東南アジア金融事業	15億円	△35億円	50億円
非金融事業	6億円	3億円	3億円
全社調整	△3億円	△18億円	15億円
合計	75億円	△39億円	114億円

# 現状の取組みと今後のビジョンについて

**代表取締役社長 藤澤 信義**

## 国内金融事業

- **個人向け無担保ローン（消費者ローン）は、事業再生が完了し、完全撤退**
- **独自の強みを生かしたアパルトローン保証に注力**
- **安定したキャッシュを生む当社グループのベースとなるセグメントに成長**



## 韓国金融事業

- 2012年10月スタートの貯蓄銀行は約2年半で黒字化
- 知名度の向上により安定した新規貸付を実現
- 今後のグループの成長ドライバーに成長

## 東南アジア金融事業

- **大規模な構造改革を推進**
- **NPLを分離し営業活動を強化できる基盤整備が完了**
- **増資により自己資本比率は約18%**
- **今後は営業資産の積み上げを図る**

